



「技術者として、 それ以外でも成長できる」

— 山本社長の紹介とのことですが、どこで山本社長と知り合ったんでしょうか？

福嶋 山本さんはIT教育を扱う子会社の社長をしながら、実際に登壇もしていらっしゃいます。私の新卒入社時の新人研修に岡山までいらしていたことがきっかけでした。私は学生時代から漠然と起業したいという夢を持っていました。山本さんと名刺交換をして、東京で社長をしている人だということを知り、東京の話やどうやって社長になるのかなど、いろいろな話をするようになりました。そこから三年ほど連絡をとって、DXの会社を立ち上げると聞き、挑戦したいとお話ししました。

— 三年も前からお付き合いがあったんですね。山本社長は落ち着いた方ですが、慕ってつ

いてくる人が多い印象です。

福嶋 山本さんは一見おとなしく、主張するタイプではありませんが、計画的で頭脳派なところに、憧れがあります。皆、そんなところに惹かれるんじゃないでしょうか。ALJDXの話をしていただいた時に初めて釘嶋社長とお会いしましたが、釘嶋社長は山本さんと正反対で熱い人です。DXの新会社を起業する理由や将来的なビジョンを熱く話してくださいました。すごく印象に残っています。お2人のバランスはとてもいいと思います。

濱口 釘嶋社長はトップセールスマンだったので、パワーのあるトークが得意ですよ。お客様への最後の一押しを決めてくれます。真似しようとしてもなかなかその情熱を伝えられるものではないし、人に好かれる力も

持っていて、釘嶋社長だからこそ獲得できたお客様は多いと思います。

— そうですね。採用面でも面接で釘嶋社長の会社に対する熱意に共感し、入社を決めた社員は多いです。

さて、お2人は大手企業からベンチャー企業のALJに転職したわけですが、どんなところに違いを感じますか？

濱口 一番感じるのは、大企業には無い柔軟性ですね。大手にいた時は、大卒と専門卒の差を大きく感じました。自分で言うのも何ですが、僕は、大卒、専卒入り混じった同期の中でも一番成績が良く、入社二年目で後輩の教育を任されたのですが、大学卒の後輩より給料が安かったんです。その理由を聞いたら専門学校卒だから、との答えでした。直属の上司は上に掛け合ってくれましたが、結局会社の給与ルールを守ることになり、二年待つてくれと言われがっかりしました。ALJでは、働いていく中で評価され、給与はどんどん上がっていき、先輩を抜いて社内一番給与をもらっていた時期もあるかもしれません。ALJは実力で評価される会社だと思っています。

福嶋 ALJに転職して、ラフな服装で出社しているところがいいと思います(笑)。

前職では、仕事は安定していましたが、技術の幅が狭かったので技術力は伸びないだろうなと感じていました。新しいプロジェクトがあっても挑戦できるのは一部の人だけ。でも、ALJならいろいろな案件をお客様からいただけるので、技術者としての成長が可能で、自分で考えて、自分で動いて仕事を取って、自分でできる、エンジニアとしても、それ以外の面でも成長できるチャンスはたくさんあります。仕事も、給与も大手との違いは多いです。ALJDXのCTOのポストを

与えてくれたのもALJの実力主義と柔軟性ならではのと思っています。



所属に関わらず全エンジニアのスキルアップ向上のため、毎週のようにコミュニティのセミナーを行う福嶋さん

子会社で起業すると 小さなリスクで挑戦できる

— ALJでグループ会社として起業する魅力を教えてください。

濱口 やっぱ、一番は本体のリソースを活用できることが一番大きいですね。

福嶋 そうですね。子会社としてゼロから起業するリスクなどを考えるとすごくありがたいです。

濱口 僕は、当初から社長を希望して「ALJ Myanar (以下、ALJMM) のCEO になったわけではなく、海外勤務経験があったから声をかけられたという流れですね。釘嶋社長のお客様がロサンゼルスにいて、そのシステム開発のためロスに一年半滞在し、プリジスEとして本社とやりとりをしていた時期がありました。日本に帰国後、ALJMMから出来上がってきたものの品質チェックを担当していたのですが、どう